

大学院部会における審議経過の概要(要旨)

- 国際的に魅力ある大学院教育の展開に向けて -

1. 今後の大学院の基本的方向

大学院の目的・役割

「大学院」 = 知識基盤社会の「深い知的学識を涵養する高度な教育の課程を提供する場」

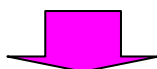
今後の主な人材養成機能 =

- ・ 創造性豊かな研究者等
- ・ 高度専門職業人
- ・ 教育と研究の能力を兼ね備えた大学教員
- ・ 知識基盤社会を多様に支える知的人材

課程制大学院制度としての発展の方向性

博士課程 = 研究者等 / 大学教員の養成
 修士課程 = 研究者等養成の一段階
 高度専門職業人養成
 知識基盤社会を多様に支える知的人材の養成
 専門職学位課程 = 大学院段階より高度専門職業人養成に特化

2. 大学院教育改革の基本的方向



〔課程の明確化〕

特に人材養成機能の面で、各大学院が自ら課程の目的について、
 焦点を明確化（大学院設置基準に新たに規定）



〔実践〕

大学院における教育の課程の組織的展開の強化(大学院教育の実質化)

「研究者 / 大学教員養成」 = ・ 海外、企業での研究経験など、研鑽を積ませる教育 など
 ・ プロジェクトのマネジメント能力を高める教育 など
 「高度専門職業人養成」 = ・ 「理論と実務の架橋」を目指す実践的な教育 など
 ・ インターンシップにより、学問と実践を組合せた教育 など
 「知識基盤社会を多様に支える知的人材層の確保」
 = ・ 統合された知の基盤を与える教育を基本とした、高度の素養を涵養する教育 など
 ・ コースワークを重視した教育 など

3. 今後の審議予定

今後の学問分野別WGで検討を深めつつ、改革支援方策を更に体系的に具体化

課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程や研究指導の確立

- ・ 教員の教育・研究指導能力の向上
- ・ 教員・学生の流動性の拡大
- ・ 社会のニーズと大学院教育のマッチング など

研究者養成機能の充実

- ・ 博士課程における体系的な教育課程
- ・ 大学院の研究機能の強化(施設・設備など)
- ・ 学生に対する経済的支援と大学院修了者のキャリアパスの多様化 など

実効性ある大学院評価